はじめまして

ＮＰＯ法人　Ｊコミュニケーション

子ども日本語教室・未来塾

理事　本堂晴生

日本に住んでいる外国人

日本には 217 万人の外国人が住んでいます（2015 年 6 月末時点）。国籍別には、多い順に中国、韓国・朝鮮、フィリピン、ブラジルなどです。

1990 年までは 90 万人くらいでしたが、日本のバブル景気の時代に、企業の深刻な人手不足の緩和のため、三世までの日系人を対象に入管法による職種制限が 1990 年に撤廃されました。これにより同年からブラジルをはじめとする南米各国などから日系人の来日が増え、日本に定住することとなりました。

日系人は、明治元年（1868 年）以来、移民として日本以外の国に移住した日本人とその子孫です。移民として移住した日本人たちは、幾多の困難に遭遇しながら生活の礎を築いていきました。日系人はブラジル、米国はじめ現在世界に約 260 万人いると推定されます。日本には約 35 万人の日系人がいます。

群馬県に住んでいる外国人は 4 万 5 千人です。そのうち伊勢崎市には最多の 1 万 1 千人が住んでいて、多い順にブラジル、ペルー、フィリピンであり、日系人が多いです。

日本語の壁

海外に移住した日本人たちは日本の文化を大事にしつつ必死に現地に溶け込み、今や政財界、教育界などで高い地位と尊敬を集める人たちも多くいます。一方で、子、孫と世代が進む中で現地の社会で使うことのほとんどない日本語は次第に薄れ、上述の 1990 年以降来日した日系人は大多数がほとんど日本語ができませんでした。その多くが「デカセギ」のつもりで日本の生活を始め、日本語が十分ではないこれらの人たちの多くは人材派遣会社経由の不安定な就労でした。一方で、子どもは親の事情で突然母国を離れ来日したわけで、その心理的負担はかなり大きく、日本語が十分ではない子どもにとって厳しい教育環境となります。また、1990 年頃に来日した親の子どもが結婚し第二世代の親となり、現在は第三世代の子どもが小中学校に増えています。いずれの世代も日本語能力や教育の問題を引きずったままのケースが多く、子どもの教育への影響は世代間で連鎖しています。

（中高生クラスの様子）

外国人の子どもの教育支援

伊勢崎市では外国人の子どもの多い小中学校に日本語教室があります。授業についていくのが難しい教科の時間は、日本語教室に来て日本語や教科などを学びます。日本語教室に来ている間のクラスの授業は受けることができないので、学習に遅れが出がちになります。

また日本人の親であれば学校の宿題を見てあげたり、子どもから学校での様子の話を聞いてあげることができますが、日本語が十分ではない外国人の親の場合それをするのは難しいです。子どもが何かのきっかけで学校生活から外れ始めると不登校や心理的問題を抱えたり中途退学に陥ることがあります。

Ｊコミュニケーションでは、「子ども日本語教

室・未来塾」を開催し、毎週土曜に外国人の子どもたちの日本語や学校の勉強のサポートをしています。午前が小学生クラス（2 教室　計 25 人）、午後が中高生クラス（1 教室　13 人）でそれぞれ 2 時間行います。

国籍やルーツは、ペルー、フィリピンが多く、ブラジル、バングラデシュ、パキスタン、中国の子どももいます。

生活の日本語と教科書の日本語

子どもたちは実に様々な経緯を背負っています。小学生クラスは日本生まれの子どもが多いですが、生活の日本語は話したり聞いたりはできても教科書の日本語を読んだり書いたりするのが難しいです。中高生クラスでは、親の事情で来日し、母国の学校で勉強をがんばっていたのに日本の学校で日本語が分からず授業が理解できないことになり、日本語をゼロから教えることになります。

Ｊコミュニケーションではできるだけ子ども 1 人に支援者が 1 人付く 1 対 1 の支援を行い、多様な子ども一人一人に合わせた支援をするようにしています。子どもは自分のレベルに合った日本語・教科学習支援や 1 対 1 の会話で自分を認めてもらっていると感じ、やる気が湧いてきます。このような「居場所」であることも大事にしています。

地域とのかかわりを深める取り組み

（小学生クラス　学期末交流会）

外国人の子どもの場合、地域社会や日本文化に触れる機会が少ないので、小学生クラスでは勉強以外に、地元の畑でじゃが芋掘りや、夏休みにはバター作り、理科の実験、手話コーラスなどを、また中高生には地元の伊勢崎銘仙の着物体験を実施しました。

高校・大学進学について保護者から相談があることもしばしばです。外国人保護者の場合、日本の学校制度の基本知識を持っていないことが多く、個々のケースに合わせて具体的相談に乗り、親子が自分たちで決めることができるよう、必要に応じ学校とも連携して情報提供を行っています。

成長する支援者

支援者は、日本語教育の専門知識を持つ人や元学校の先生、地域の住民の方々、大学生などが参加してくれています。日本語ゼロからの支援や進学に向けた日本語学習などでは、教える力のレベルアップが必要とされます。毎年支援者研修を行い、今年度は東京の中学校で長年日本語教室での指導をしておられた教員の方に来ていただき、実践に役立つ研修をすることができました。

活動が 5 年目に入り、学習に来ていた子どもたちが中高生になり、支援者として参加してくれるようになってきました。支援をする中でさらに成長しています。多様性を持つ子どもたちは一人ひとりの人生の選択肢が広がることで、日本や地域に貢献できる人材になっていきます。

なお、今までの実績が評価され平成 27 年度群馬県国際交流賞をいただきました。

運営の課題としては、継続的な財源の確保と支援者の確保があります。

支援者と子どもの 1 対 1 の支援をできるだけ行うために支援者を募集しています。

関心のある方の見学をお待ちしています。お気軽にお問合せください。

問い合わせ先：
NPO 法人　Ｊ コミュニケーション
群馬県伊勢崎市本町 20-1　SOA ビル 201
高橋清乃　070-5593-5939
髙橋眞知子（小学生クラス）080-5476-3238
本堂晴生　（中高生クラス）　070-5021-9103
E メール　kiyono225@gmail.com